

土壌条件に対応したは種精度向上技術導入による春まき小麦の安定生産

～「ハルユタカ」の種子の大きさを揃えよう～

活動年次：令和3～4年

対象者：江別市種子小麦生産部会6名

石狩農業改良普及センター 本所

1 課題設定の背景

現状：小麦の種子製品ロットは生産者別に管理+出荷

問題：ロットによって千粒重がばらつき、一般ほの種作業に影響（下図）

同じ **14kg/10a** のは種量でも・・・



生産者Aの種子
千粒重 **40g**

14.0kg/10a =
35万粒/10a
(350粒/m²)

適正は種量
(春まき小麦の
適正は種量)
340粒/m²

生産者Bの種子
千粒重 **36g**

14.0kg/10a =
38.9万粒/10a
(389粒/m²)
は種粒数過剰

多くまかさる！

種子を **使う** 側も大変・・・

千粒重なんてどうやってはかる？
は種量調節もひと苦労・・・

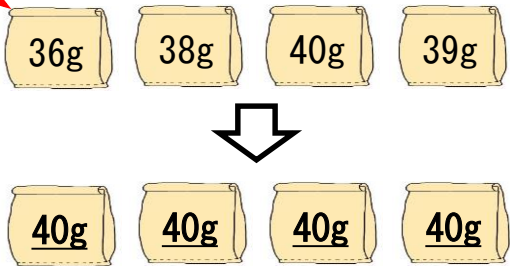


は種量調節の作業風景

重要課題

課題：種子を **作る** 側

=千粒重(部会平均)を**40g**に底上げ



2 活動の経過

R3年3月

JA、種子生産部会と課題を共有

R3年止葉期～葉色値を測定

→葉色の低い場合は千粒重低下防止の為、尿素散布（1.5～2.0%液）を要請



葉色が薄いと千粒重やタンパク値が低下するんだね～



実際の葉を使った葉色見本

3 活動の成果 *****

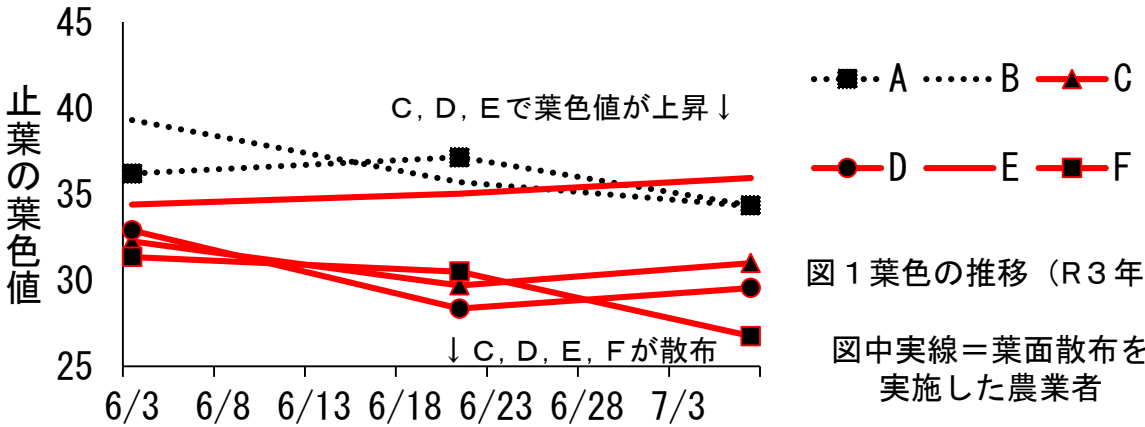
R3年

<取組状況>

葉色値の低かった4名が葉面散布を実施（C、D、E、F氏）

<葉色の変化>

C、D、E氏で散布後葉色値が上昇した（図1）



<取組結果>

○ 千粒重

→バラつきはそのまま、値が向上した（千粒重の底上げに成功）

○ 子実タンパク（副次的効果）

→バラつきが小さくなり、値が基準値※に近づいた

※パン・中華めん用小麦タンパク値
基準値：11.5～14.0%、許容値：10.0～15.5%

		千粒重	子実タンパク
部会平均	R3	39.5	11.0
	R2	38.7	10.4
標準偏差	R3	1.70	1.35
（バラつき）	R2	1.68	1.69

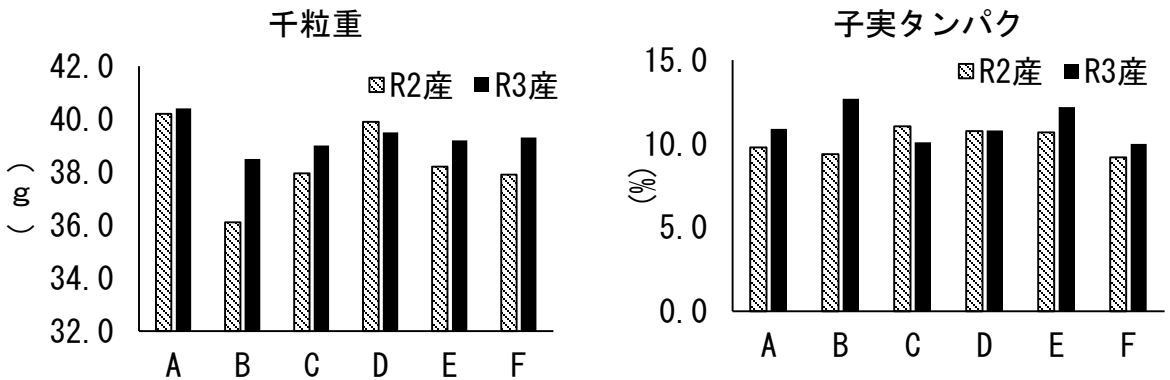


図2 農業者別の千粒重、タンパク値の変化（R2年→3年）

図中A～Fは農業者名を示す

4 今後の活動 *****

- ① 冬期講習会を開催（本年度の活動成果の報告）
- ② 葉色目標値の設定（本年度の調査データを活用）
- ③ R4年度も同様の活動を実施（更なる品質の向上と斉一化！）